

# 台風18号に対する農作物の技術対策

平成21年10月7日  
福島県いわき農林事務所

平成21年10月7日8時45分現在、台風18号は奄美大島の東南東約200キロを1時間におよそ30キロの速さで北北東へ進んでいます。

台風は強い勢力を維持したまま北上を続け、東北地方には暴風域を伴って8日夕方から9日朝にかけて最も接近する見込みです。

## 【今後の気象予想】

### 風

台風が接近する8日夕方から9日朝にかけて、東北地方は台風の暴風域に入るおそれがあります。このため、北または東よりの猛烈な風となり、予想される最大風速は25メートルです。

### 雨

7日夕方から雨が降り出し、9日にかけて雨が降る見込みです。7日06時から8日06時までには予想される雨量は、いずれも多い所で、50ミリの見込みです。なお、台風の接近により8日06時から9日06時にかけて、多い所では太平洋側で300ミリの雨量が予想されます

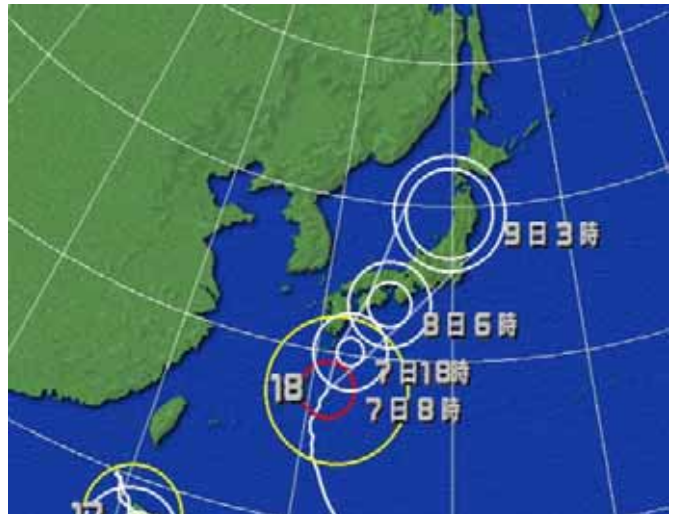
今後の台風の情報に留意し、農作物の管理には十分注意しましょう。

## 【水 稲】

- (1) 排水路や排水溝の整備を行ってほ場排水に努め、穂発芽等による品質低下を最小限にとどめましょう。
- (2) 倒伏、穂発芽等により品質の低下が予想される部分は、別に収穫して乾燥調製し、全体的な品質低下を防ぎましょう。

## 【大豆・そば】

- (1) 明きょや排水口等を点検し、ゴミの除去などにより速やかに排水できるようにしましょう。
- (2) 表面水や明きょの滞水は早急にほ場外に排水できるように、場合によっては畦畔の切削等を実施しましょう。



出典：「福島県農業気象情報システムADVANCE」より

## 【野菜・花き】

### (共通)

#### 1 事前対策

- (1) ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。
- (2) パイプハウスの被覆資材および止め具(マイカ線、ビニペット等)を点検し、補修しましょう。
- (3) パイプハウス等施設は強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定しましょう。
- (4) パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋かいを入れ、補強しましょう。
- (5) 施設では、天窓や扉から風が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。
- (6) 収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫しましょう。

#### 2 事後対策

- (1) 停滞水は、明きょなどで速やかな排水に努めましょう。
- (2) ネギやキクなど倒伏したものは、茎が曲がるのを防ぐため、できるだけ早く引き起こすとともに、薬剤散布を行い病害の発生を防止しましょう。
- (3) 台風通過後は天気が回復して施設内が高温になりやすいため、吹き返しに注意しながら、施設等の換気を図りましょう。

### (野菜)

#### 1 果菜類(ハウストマト、ハウスきゅうり)

- (1) 風等により損傷を受けた果実・茎葉は早急に摘果や整理をしましょう。
- (2) 多湿条件になると、ハウス抑制きゅうりでは、べと病等、雨除けトマトでは灰色かび病等病害が発生しやすくなります。台風通過後は、換気に努め病害の発生を抑え、病害発生時は適切な薬剤散布を行いましょう。

#### 2 アスパラガス

- (1) フラワーネットと支柱等を点検し、倒伏を防止しましょう。
- (2) 黄化した茎葉は早めにほ場から持ち出し、適切に処分してください。

#### 3 いちご

栽培管理が大切な時期です。台風による雨風が施設内に入り込まないように、(共通)事項を参考にして、排水対策、施設補強、施設管理に努めましょう。

#### 4 ねぎ

冠水したほ場では、防除に努めるとともに、ほ場が乾き次第軽く中耕を行いましょう。

#### 5 ブロッコリー

- (1) 事前対策として、土寄せして株元を補強します。
- (2) 事後は、株元が露出したり、降雨により土壌が締まっていたら、天候の回復を待って株元へ土寄せするとともに、畦全体を軽く中耕して通気性を良くしましょう。
- (3) 強風雨で茎葉が痛んだ場合、軟腐病、黒腐病が発生のおそれがあるので、適切な薬剤散布(殺菌剤)を行いましょう。

## (花 き)

- (1) 露地ギクではフラワーネットの張りや支柱を点検し、倒伏を防止しましょう。また、収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫しましょう。
- (2) 施設花き(トルコギキョウ、鉢物類等)では灰色かび病等が発生しやすくなるので施設内の換気を行い、もし発病した場合は被害部分を取り除いてから適切な薬剤散布を行いましょう。

## 【果 樹】

### 1 事前対策

#### (1) なし

##### ア 収穫

「新高」で強風による落果や傷害が懸念されます。下記の「新高」の成熟特性を参考に収穫可能な果実ではできるだけ事前に収穫しておきましょう。

##### 「新高」の成熟特性

##### 生育日数

満開後から収穫始めまでは174日(好間地区10月5日頃)、収穫盛りまで178日(好間地区10月10日頃)です。

##### 果実の成熟

収穫始期: 果実の大きさや着果部位(樹冠外周部、新梢発生のある着果果台、上向き短果枝、古い短果枝に着生した果実から熟す)を目安に収穫する。

収穫盛期: 大果を優先して、また、果頂部の着色を見ながら熟度を判断し収穫する。

収穫終期: 着果果実の大部分が適熟期に入っているため、取り遅れに注意する(果皮色が進むほど過熟になる)。

##### イ 防鳥網等の撤収

収穫が終了している場合は、防鳥網が風で飛ばされないよう直ちに片付けてください。

##### ウ 落下した果実の処理

速やかに回収し適正に処理しましょう。

#### (2) いちじく

##### ア 結果枝の誘引

強風により結果枝が折損しないよう、緩んでいる場合には誘引柵や誘引用のマイカ線に固定してください。

### 2 事後対策

#### (1) 排水対策

果実品質や樹勢低下、病害の発生を回避するため、浸水および滞水している園地では、明渠などによりできる限り速やかに排水してください。

#### (2) 病害防除

なしでは葉に損傷がある場合、病原菌の侵入を防止するため黒星病の秋季防除と兼ねて、1～2日後にオーソサイド水和剤80 600倍を散布してください。なお、翌年の伝染源の一つである芽

基部病斑が生じる長果枝に十分量の薬液が到達するよう、散布量250? / 10 aを目標にしてください。

### (3) 果実の処理

落果した果実や結果枝に残っている腐敗果は病害虫の発生源となるので、速やかに収集し適正に処理しましょう。

### (4) 損傷した枝の処理

いちじくで結果枝が折れた場合は、結果枝を切り戻しトップジンMペーストを塗布してください。

## 【畜産・飼料作物】

### 1 事前対策

- (1) 強風による畜舎や堆肥舎等の損壊、及び畜舎等への風雨の吹き込みを防止するため、施設の補強を行いましょう。
- (2) 畜舎周辺の不要な物は、風で飛ばされないよう片付けましょう。
- (3) ほ場には明きよを掘削し、速やかに排水できるようにしておきましょう。
- (4) 各地域において、あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機による搾乳や生乳冷却等について、早急に対応できるよう努めるましょう。
- (5) 堆肥舎への雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出する恐れがある場所では、ブルーシート等を掛けるなど、流出防止に努めましょう。

### 2 事後対策

- (1) 滞水しているほ場は、明きよなどを点検し速やかに排水しましょう。
- (2) 豪雨によりほ場で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。
- (3) 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、畜舎等の乾燥に努めましょう。
- (4) 稲わらの収穫を行っている地域においては、天候の回復後、速やかにほ場から搬出して乾燥に努めるとともに、付着した土汚れ等を除去した上で飼料に用いましょう。